



アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



今月のテーマ

アイヌラックル (※)
本田優子 (札幌大学教授)



(※) アイヌラックル…文化英雄の名前

世

世界の多くの民族の神話に、人間に文化を教え社
会の礎を築いた伝説的存在が登場し、文化英
雄と呼ばれます。アイヌ民族の場合、日高の沙流川あた
りの伝承に登場するアイヌラックルが有名。アイヌ人
間、ラックル味におい、クルル人。つまり、本来は神であり
ながら人間の味やにおいがする人という意味です。

といつても、生活文化を教え

かやのしほ

た神としては、萱野茂先生の絵

本『オキクルミのぼうけん』の主

人公オキクルミの方が一般的に

知られています。実はオキクル

ミは、神謡とよばれる物語シャ

ンルに登場するヒーローの名前

なのですが、沙流川周辺ではア

イヌラックルと同一人物だと考え

られるようになったみたいです。

アイヌラックルの誕生について

は、いくつもの異なる伝説があり

ますが、私が好きなのはこんな

お話。「この地上に最初に降ろされた樹木はハルニレでし

た。ところが、天界からハルニレの女神の美しさに見とれて

いたカンナカムイ(雷/竜の神)が女神の上に真つ逆さま。一瞬

にして燃え上がった火の渦巻きの中から這いだしてきた赤

ちゃんがアイヌラックル。母であるハルニレは燃え尽きたの

で、イレスサポ(育ての姉)に育ててもらったことになった。」



イラスト/山丸ケニ

アイヌラックルの父親は雷神だった日神だったし
ますが、母親は必ずハルニレの女神。ハルニレはもとも
と火おこしの材料にする燃えやすい木なので、そこに雷
や太陽の力が加われば猛烈な勢いで燃え上がるのも頷
けます。かつて金田二京助博士も「日神であるといい、雷
神であるといい、地上の火の起源を理解するには十分
な神々である」と述べています。

実は、世界の多くの神話で火は
人間と強く結びついており、ア
イヌラックルは人間の始祖とし
て申し分ない存在なのです。

さらにこのお話からは、人間
は樹木から生まれたという考え
方がうかがえます。アイヌラッ
クルが身にまとっているのは母で
あるハルニレの樹皮で作られた
赤いアットウシ(樹皮衣)で、裾に
炎が燃え立っているとのこと。
アイヌの神々の中で、アットウシ

を着ているのはアイヌラックルだけだと考えられ、そう
いう意味でもアットウシはアイヌ民族のアイデンティティ
と強く結びついた衣服と言えます。

このような人間の起源に関わる伝説は民族の「我々意
識の根源」であり、過去と現在とをつなぎます。もっと重要
視されているんじゃないかな、と私はいつも思っています。



次回のテーマは「マキリ(小刀)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トッレツボン」



イランカラ
「ごんには」からはじめる。

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。